会 議 録

内容承認	公開・ 非公開	会議録の 作成方法	＜開催日＞令和元年8月3日（土）
卜田委員長 東城副委員長			＜時 間＞13：00～15：00
＜傍聴人数＞ 10名	公開	要点 記録	＜場 所＞ 市役所新館4階 第2委員会室

＜名称＞ 第1回岸和田市立幼稚園及び保育所あり方検討委員会

＜出席者＞

◇岸和田市立幼稚園及び保育所あり方検討委員会委員（○出席、■欠席）

足立	大城	卜田	東城	沖藤	田中
○	○	○	○	○	○

◇事務局

永野市長、樋口教育長

【子育て応援部】山本子育て応援部長、池宮子育て施設課長、倉橋参事、片山主幹、上野担当長、拝崎担当長、松阪担当長

【教育委員会】藤浪教育総務部長、谷学校教育部長、高井教育総務課長、井上参事、金永主査

【財務部】坂井財務部長、渡辺理事、新内行財政改革課長

【保育所】杉本所長、鈴木所長

【幼稚園】永野園長、石原園長

＜議題等＞

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 委員・事務局の紹介
- 4 議題
 - (1) 委員長及び副委員長の選出について
 - (2) 諮問について
 - (3) 市立幼稚園及び保育所の現状と課題について
 - (4) その他

<概要>

- 市長及び教育長挨拶
- 委員自己紹介、関係者・事務局紹介の後、委員長、副委員長の選出
委員長 に 卜田委員を推薦 ⇒ 承認
副委員長に 東城委員を推薦 ⇒ 承認
- 議題（２）～（４）について事務局から説明
- 事務局の説明を受け、質疑・意見交換

■議案（２）～（４）の意見交換

【卜田委員長】

議題（２）諮問について、をお願いします。

（議題（２）について事務局説明、教育長から委員長へ諮問書手交）

【卜田委員長】

ありがとうございました。ただいま樋口教育長より“今後の就学前児童に対する幼児教育・保育のあり方について”諮問書が示されました。岸和田市の就学前児童のより良い幼児教育・保育について委員の皆様からご意見をいただき、審議してまいりたいと考えています。非常に難しいテーマ、色々な議論をしなくてはいけないテーマだと思います。

特に先程から“岸和田市としての特質を活かして”と、話も出ていました。そこをしっかりと踏まえて、どうすれば最善の策が出てくるのか、また５年、１０年と先を見据えて、どうすれば最善の策が見えてくるのか、永野市長からも柔軟にとっていただきました。柔軟な頭で議論が出来ればと考えています。

限られた時間ではありますが、皆さん、よろしくお願いします。

（議題（３）について事務局説明）

【卜田委員長】

説明が終わりました。今の事務局からの説明内容について何かご質問等がございましたら、挙手し、名前を言ってからお願いします。委員会として共通の問題意識を共有出来たらと思います。

【沖藤委員】

保育料の無償化についてお聞きします。今働いていない知り合いからも「仕事を始めた」という声を聞き、そういった機運が高まっていると感じています。私自身、保育園に子どもを預けていましたが、復帰当初は保育料を払うために働いているような時期もありました。待機児童となった場合、当時は認可外施設に預けていましたが、給料の半分以上を保育料として支払っていました。今後、そういった状況ではなくなると、働くママは増えていくと予想されます。

【卜田委員長】

無償化の中で、保育二ーズの高まりが予想されるという点から話しをいただきました。

この点、市としてはこういった見込みを持っているのですか。

【倉橋参事】

今後の5年間について、今まさに子ども・子育て会議で議論を進めているところです。無償化については10月からスタートしますが、私たちが注視しているところです。今年4月の段階では把握出来ていない状況であり、この先どう変化していくのか判断しかねている状態です。女性が働きやすい環境の構築とともに、保育ニーズの高まりも予想されるので、市としては、状況の推移を見ながら進めていくという考えです。

【足立委員】

3点あります。

1点目は、“何を以ってニーズを捉えるのか”という視点です。女性労働が増える中で、現在の待機児童数よりも増えるのではないかと考えます。女性労働力ですが、27年度は73.3%、30年度は概算で計算すると、86%となっています。わずか3年だけでも大きく伸びています。場合によっては、潜在的待機児童数を考慮しないとついていけないと懸念されます。待機児童の問題については、財政の視点では「女性全員が働いた場合に、仮にどうなるか」という考え方があります。そうなった場合、どの程度の規模が必要なのかという、規模を考える場合の一つの視点になると思います。

2点目は、老朽化です。実際にどの施設を維持補修するのか、新たに建設するのかといった、今後の計画について6ブロック（6圏域）でどうなっているのですか。どこまであり方委員会で検討して良いのでしょうか。

3点目は、岸和田市において、何か先駆的な取組みはあるのでしょうか。

【松阪担当長】

施設の改修計画については、現時点において具体的な計画はありません。今後、あり方委員会で議論・答申に基づき、市としても検討していきたいと考えています。

【高井課長】

先駆的なモデルケースとしては、市内公立幼稚園については殆んどが、小学校と併設という形になっています。その中で、接続・連携を行っているという中で、1園だけですが天神山幼稚園は、天神山小学校の空き教室を活用し、施設一体型として運営しています。施設一体とすることで、連携が深まったと認識しています。

【足立委員】

天神山幼稚園の事例について確認します。接続も上手くいっている。なおかつ、施設を改修するという点で、老朽化対策に係る費用も不要になったということでしょうか。どの程度改修にかかったのでしょうか。

【高井課長】

水道・トイレ等といった改修費用で、約6,000万円程度です。

【足立委員】

通常の施設を新たに建設すると、その費用は膨大です。その中で、この程度の金額で終わったということ、これはメリットと捉えて良いということですね。

【卜田委員長】

天神山幼稚園の事例は非常に効果が高かったと言えます。幼稚園の園児より

も、どちらかと言えば、小学校の低学年の子どもたちにメリットがありました。小学校1年生が園児のお世話をする。年長者の役割を果たすということで、非常に良かったと大阪府においても、事例報告がありました。全国的に見ても良い事例だったと思います。費用面でも新たな施設を建てるよりは、低額で済むという点でも良いのではないのでしょうか。

これまでの1小学校区に1幼稚園があったという考え方の点でも、意味のある事例だと思います。

【大城委員】

先程の取組みに絡めて言えば、そういった事例が幼稚園・小学校との接続という形で実施の可能性があるとすれば、どの小学校で施設や設備面で余裕があるのか資料があれば、出していただきたいと思います。

【沖藤委員】

先程の事例では小学校を利用した場合ということですが、公立になりますよね。今回は民間も入れてということですが、私個人としては、民間の力も当然必要と思いますが、ある一定公立を残しておくというのも、意味があると思います。

費用面は確かに民間の場合、国や府の補助もあり、メリットも高いですが、全て民間というのは行き過ぎかなと思います。例えばフォローが必要な園児にとっては、公立を一定残しておくことも必要だと思います。公立に関しては、小学校を利用するのは素晴らしいなあと思いました。

それと給食という部分は“食育”の点から見ても、またこれから働こうという女性にとっては、就職活動をする点においても効果的です。女性・子ども・親、それに低所得の家庭にとっても、給食はメリットがあると思います。

学校の中に入れると、給食の部分も取り入れることが出来れば、幼稚園もニーズとして高まってくると思います。また幼稚園という名前に拘る必要はないかなと思います。子ども園には働いているお母さんも、働いていないお母さんも時間を選択しつつ、食育も受けつつ、小学生との交流があれば素晴らしいなあと思います。

給食の導入について、市として考えているのでしょうか。

【高井課長】

幼稚園の給食について、現状天神山幼稚園は小学校と一体の施設で運営しているため、提供しています。他の園については、作る量の上乗せ、3歳には食材の大きさをどうするか、運搬をどうするか等考える必要があり、現状実施しておりません。ただ給食については、メリットはあると認識しています。

【ト田委員長】

この中の議論によっては、色々な形での検討もされていく必要があると思います。

【田中委員】

私は公立のベテランの先生がどうなるのかと思います。民間となれば営利主義になる傾向があると思います。私の友人に、公立園に勤めている者が居まして、その方の施設が民間になった途端に、どんどんベテランの先生が退職に追い込まれることがありました。園は綺麗になったけれども、障害の子どもたち、いじめの子どもたち、悩みを抱えているお母さんのフォローをしていた先生が居なくなったので、園に行くのが嫌になった児童が居

たとのことでした。経験のある先生は、そのまま残して欲しいと言われたとのことでした。公立の先生の人材も大事にしていきたいと思います。岸和田市の素晴らしい先生を残していただきたいと思います。

【ト田委員長】

全ての民間園が営利主義というわけではありませんが、色々な園がありますし、そういった報道でも出ています。かなり丁寧な議論が必要だと思います。

人材という話が出ましたが、岸和田市の先生方の世代構成・年齢の幅・現状はどうですか。

【永野園長】

最近3年間では、去年は2名、その前は7名、更にその前は6名と採用していますが、40歳台の先生が少なく、年齢が開いている状態です。

【ト田委員長】

ミドル世代の採用が少なかった時期があったということですね。

【東城委員】

今までの話の中で、整理が必要だと思います。

公立が民間に移ること、幼稚園・保育所が認定こども園に移ること、一体で考えること、分けながら考えること、その必要があるかなと思います。民間に移ることのメリット・デメリットは、民間によって左右されると思っています。実際にはおそらく、成功事例であったりとか、一生懸命保育の中で考えながらされている民間の活力は、大いにあるのかなと。その部分は確かに両方の部分を、見ていかないといけないと思っています。

人口、女性の労働力率の変遷を見ると、働く女性を支援していくような形が望まれていると思います。そうすると幼稚園・保育所・認定こども園のあり方を考える必要があります。ただ無視できないのは、数だけの話しではなく、また働きたい女性が増えているといっただけの話しではなく、幼稚園は幼稚園なりの保育を実施してきた、特に岸和田市においては、1小学校1幼稚園という形の“地の利”を活かした部分だと思っています。子どもに跳ね返る質の部分は、無視出来ないと思っています。地域で実情が異なる部分も議論する必要があると思っています。

【ト田委員長】

ブロックごとについて地域特性はあるのでしょうか。岸和田市では、なぜこれまで1小学校区1幼稚園が続いてきたのでしょうか。私のイメージでは、地域にお住まいの方が、自分の地域を大事にされてきたのではないのかなと思っています。

【藤浪部長】

岸和田では地域コミュニティ意識が強い反面、裏を返せば排他的なところもあります。祭りの影響も大きいのではないのでしょうか。6ブロックも、岸和田市が合併を繰り返してきた旧市町村の枠組みがベースにあります。岸和田市としてはそういった経緯を重視して、行政を進めてきたと思います。

【谷部長】

公立幼稚園の取組みとしては、平成14年度から4・5歳児の異年齢時保育を弾力的に実施し、保育ニーズのバランスを図ってきたと考えています。また働くお母さんが増えた

ことに伴いまして、預かり保育（アフタースクール）を19年度から取り入れ、現在では午後6時まで預かるシステムを作っています。また小学校との連携を意識した活動を行うコマを増やしたりしています。古くから、小学校に併設という点を活かし、幼稚園は幼小連携に取り組んできました。

【ト田委員長】

かなり独自の取り組みとして、これまでされてきたのだと思います。

【田中委員】

私の印象では、祭りを大事にするまちという印象が強いです。

【ト田委員長】

その中で育ってきている子どもの姿もあると思い、聞かせてもらいました。市全体として、地域のつながりが強いまちだと思います。住民はどのような構成、人の移動はどうでしょうか。

【藤浪部長】

人口は減少になっていますが、その大きな要因としましては、転入者より転出者の方が多いため、人口が減少しています。ただ本市の特徴としましては、他の町に移る人も少なく、比較的、市全体の人口移動が少ないというイメージです。

【田中委員】

町の中で引越しが多くて、びっくりしています。

【足立委員】

先程のやり取りは、非常にわかりやすく、岸和田の現状を捉えています。公立幼稚園が小学校に併設しているという状況ならば、施設の配置図を見ることで、子どもがどこに多く住んでいるのかといった分布図にもなり得ます。これを見ると、国道26号線を中心に人が張り付いている、一方で、山手エリアでは子どもの数が少ないのではないかといった印象があります。そう考えると、今後施設を新設する、改修するにしても、どこにスポットを当てていけば良いか、考えることも可能ではないでしょうか。そういった意味ではシミュレーションがしやすいまちという印象を受けました。

【ト田委員長】

核家族化等は子育て支援とも絡むが、親世帯の分布はどうなっているのですか。

【松阪担当長】

核家族化は進んでいます。また、比較的親世代が近所に住まわれているケースが多いと思います。

【沖藤委員】

おじいちゃん・おばあちゃん世代はかなり子育てに協力されている印象があります。おばあちゃんが、朝、子どもを保育園に送って、夕方、おじいちゃんが迎えに行くという状況が、他市に比べると多いと思います。

【大城委員】

他市で子ども・子育て会議の議論をしていると、大阪市内に通勤される方が多い自治体での大きな課題というのは、「孤立化している保護者をどう救うのか」です。そのような自治体では、保育所で、どのように子育て支援を行っていくのかという話しがメインにあ

ります。今のお話をお伺いすると、今後、子育て支援を合わせた幼稚園・保育所のあり方を考えた際に、岸和田市では、ある程度ターゲットを絞ったり、支援の提供の仕方を絞りやすいのかなと思います。

【ト田委員長】

お話しありがとうございます。今後、子育て支援のあり方を考える際の現状をお話しいただきました。

幼稚園の3歳児保育はどうしていますか。民間園とも調整を図っているのですか。

【高井課長】

幼稚園の3歳児保育については、平成27年度から実施しています。ニーズ調査をして、どう確保していくかと考え、当初は19園で実施するとしていました。

現状は、中間年である平成29年度で計画を見直し、平成29年度で、9園の実施に至っています。実態に見合った確保が出来ていると判断しました。ただ、31年度までの計画ですので、平成30年度の状況を見て、平成31年度に1園追加し、10園で実施しています。現在第2期計画を策定中ですが、令和2年度は現状と同じ10園で実施としています。

私立園との調整は、年2回あります懇談会を通じて行いました。入園の応募時期は、民間園の応募後に抽選を行うといった調整をしています。

【足立委員】

資料2-2・10頁で「他市町の施設」入所児童数が増えているのはなぜでしょうか。実際にどういった方が利用されているのでしょうか。

【拝崎担当長】

親の就労の関係と思われる。仕事先が岸和田市で見つからないため、近隣の市町村で仕事先を見つけてくるといった場合です。

【足立委員】

自分の希望で他市を選んだ、又は仕方なしに選ばざるを得なかったでは、状況が異なってきます。実態として「どういった109人なのか」といった状況把握が必要だと思います。

【沖藤委員】

大阪市内では幼稚園での3・4・5歳児保育が当然でしたので、岸和田で3歳児保育がなかったのが、逆にびっくりしました。実際数年前から岸和田市でも開始されると、抽選になるくらい人気があります。でも抽選で外れてしまうと受け皿がないので、抽選で外れた方は、どうしているのかなあとと思います。

私の友人に「何故民間を選んだの」と聞いてみたのですが、まずは給食があること、でした。そして抽選で漏れた時に、他に受け皿がないので選択した、という方も居ました。また家に近くにバス停があるので他市の幼稚園に預けているお母さんも居ました。そういった現状を踏まえて、公立の幼稚園は変わるべきだと思います。どのように変わっていくのかを議論していけたらと思っています。

【ト田委員長】

市外の幼稚園に通学している園児は多いのでしょうか。

【拝崎担当長】

隣の和泉市の私立幼稚園には、約 150 人の園児が通園しています。他にも少数ですが、堺市内に通っている園児も居ます。立地も影響していると思いますが、バスが利用出来るという事も保護者にとっては有効に働いていると思います。

【ト田委員長】

私立幼稚園は、方針もかなり多様ですので、保護者の方が選択されるという部分もあって、その中でどう選べるのかということも、議論の中で大切にしていかなければならないと思います。

【足立委員】

1・2歳児の待機児童をどうするかということも問題です。先程、3歳児の問題もありましたが、1・2歳児の点についても、留意しなければならないと思います。

資料 2-2・10 頁にあるように、岸和田市では 3,938 名から 4,189 名まで入所児童数を拡大したにも関わらず、待機児童が発生している状況です。ミスリーディングしないように、他にも資料があれば教えて欲しいです。

【ト田委員長】

1・2歳児の待機児童問題については、本日は触れませんでした。次回以降の議論にしたいと思います。

【田中委員】

公立保育園・幼稚園の入所には、生活保護者が優先することはあるのでしょうか。

【拝崎担当長】

保育所の入所選考において、生活保護者が優先されるということはありません。点数化を行い、公平性を保った入所選考を行っています。

【高井課長】

幼稚園でも生活保護者を優先するということはありません。定員を超えた場合は、公開抽選を行っています。

【ト田委員長】

次回以降の議論にも関わってきますが、公の役割を考えた場合、貧困世帯へのサポートをどうしていくか。この点は公が担うべき点になるのかなど。そのあたりも一定実態を数字としてお聞かせいただきたいです。また特に支援の必要な児童をどうしていくか。民間園の考えにもよるのですが、実際に支援が必要な児童が、どれくらい民間園に居るのか考えていく必要があると思います。

次回以降の議論として、①1・2歳児の待機児童の件、②再編にあたっては、認定こども園化の議論も必要になってきます。そこに向けて、③公立保育所・幼稚園の連携をどうしていくのか。また、④集約する場合の適正規模の問題を考える必要があります。必ずしも大きいから良い、少ないから駄目というものでもありません。そのあたりも含め柔軟な議論が必要です。また⑤民間活力を導入するにしても、どういう形で求めていくのかを考えながら、そこを考えていくに当たって、公の役割とは何なのか、一般論もあるし、岸和田市だからというものもあると思います。

それらの点について、次回以降議論を深め、議論していきたいと思います。

議事に入る前に事務局から会議時間は“2時間を目途にして”とございましたので、最後に議案（4）その他につきまして、事務局から説明させていただきます。

（議題（4）“意見書・開催スケジュールについて事務局説明”）

【ト田委員長】

以上で本日に予定していた議案は全て終わりました。委員のみなさまのご協力、ありがとうございました。

これで、第1回岸和田市立幼稚園及び保育所あり方検討委員会を閉会します。

本会議録に相違ないことを認め署名する。

委員長

副委員長